

気づき、考え、実行する さし人つつしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.12
令和4年9月21日
文責：校長 松野克己

授業参観



9月9日(金)の授業参観は、幸いなことにさほど暑くもなく、窓を全開して空気の流れを作った中での実施となりました。多くの皆さんに出席していただき、授業の様子を見ていただきありがたかったです。コロナ禍ではありますが、限定した条件を作っても実施できることはやっていきたいと思います。

中にはタブレット端末を使った授業に挑戦している学級もありました。今後、ノートや資料集に変わってタブレットを使うことも増えてくるでしょう。教科書も冊子ではなくデジタル教科書に移行していく動きがあります。そういった流れに対応していく技量が教員にも求められていくことになるので、学校でも少しずつ研修を進めていますが・・・なかなか大変です。自分の事務処理のためだけであれば、自分一人のことですが、子ども達に使えるようにするのが目的ですから一筋縄ではいきません。ましてや教員一人で児童一人一人に対応することは至難の業です。四苦八苦しながらですが、少しずつ進めていきたいと思います。



6年生天体教室



宇宙科学館は知っていましたが、こういう施設があることを、私は初めて知りました。

お話の中で強調されたのが「まちがっていい。」ということ、そして「好奇心をもって欲しい」ということです。北極点から赤道までの長さが1万kmであり、これが1mの基準となったこと、月は地球とほとんど同じ周期で自転をしているので、ほぼいつも同じ面しか見られないこと、太陽の直径は地球の約100倍であること、地球から太陽までの距離は1秒間に地球を7周半回る光速でも8分以上かかることなどを、模型やイラストを使って分かりやすく説明してもらいました。6年生各クラス2時間ずつ授業をしてもらいましたが、その2時間目には屋上に行って、望遠鏡で太陽の黒点を一人一人見せてもらいました。私自身、遮光板で太陽を観察したことはありましたが、黒点を見るのは初めての体験で、嬉しかったですね。教室に戻ってからの子ども達の質問にも、池上彰氏のように「いい質問ですね。」という言葉かけをしてもらって、丁寧に分かりやすく答えてもらいました。6年生は理科で「月と太陽」の学習をしていますので、それと関連付けた学びになりました。私はこの授業を子ども達と一緒に受けて、なんとなく月や星をいつの間にか見上げるようになりました。

9月15日(木)、外部講師をお招きして6年生が天体についての学習をしました。講師は佐賀市星空学習館という施設の副館長をされている早水さんという方でした。

宇宙科学館は知っていましたが、こういう施設があることを、私は初めて知りました。

お話の中で強調されたのが「まちがっていい。」ということ、そして「好奇心をもって欲しい」ということです。北極点から赤道までの長さが1万kmであり、これが1mの基準となったこと、月は地球とほとんど同じ周期で自転をしているので、ほぼいつも同じ面しか見られないこと、太陽の直径は地球の約100倍であること、地球から太陽までの距離は1秒間に地球を7周半回る光速でも8分以上かかることなどを、模型やイラストを使って分かり



台風14号大丈夫でしたか？

日曜日の午後から月曜日にかけて、長い時間吹き荒れた台風14号でした。メールで「鎮西町から佐志地区の一部が断水」と出ていたので心配していましたが、子ども達からは特に大きな被害は聞かれず、一安心でした。でも、アパートの屋根が剥がれたり、転覆した船があったりしたそうですね。ちなみに私の家は、日曜日の午前10時から夜8時まで停電し、電気のありがたさを痛感した1日となりました。

5年生新聞についての学習

5年生は国語の「新聞を読もう」という単元で、新聞の構成などについての学習をしています。その関連学習として、9月16日(金)に佐賀新聞社、伊万里有田支局長の青木さんに来ていただき、新聞についての学びを深めました。その学習の様子が20日(火)の新聞に掲載されたので紹介します。

この記事にも書いてありますが、原稿が夜11時ぐらいになっても翌日の午前1時ぐらいには印刷、梱包ができるそうで、そのスピードに驚かされました。

佐賀新聞の記者(右)から新聞がどのように作られるか話を聞く5年生。唐津市の佐志小



新聞どう作るの？ 佐志小児童学ぶ

取材、編集… 佐賀新聞記者が解説

唐津市 唐津市の佐志小で16日、新聞がどのように作られるのかを学ぶ授業があった。5年生42人が佐賀新聞の記者の話を聞き、情報が記事になって読者に届くまでの流れを知った。

国語科の学習内容に新聞の読み方を身に付ける授業があり、それに合わせて新聞の作られ方についても学んだ。

伊万里・有田支局長の記者が講師を務め、情報をどのように集めて記事にしているかを、台風や新型コロナウイルスに関する報道を例に説明した。記事が編集、印刷されて新聞になり、読者の元に届けられるまでの作業が深夜から未明にかけて行われると話すと、子どもたちから驚きの声が上がった。

授業後、子どもたちは「記事を書くには取材することが大事なんだと分かった」「情報は偉い人の所に集まると知って、へえ、そうなんだと思った」「夜中まで紙面を作り、大きな機械で一気に印刷すると知って驚いた」などと感想をつづった。後日、記事の書き方についても学ぶ。

(青木宏文)

運動会練習開始

台風一過の9月20日(火)、10月2日に行う運動会の全体練習をスタートしました。最初に「時間を守る」「顔を上げて話を聞く」といった心がけや、整列の仕方や座り方などの基本動作を確認しました。子ども達は真剣な面持ちで一つ一つの動きをしっかりと頑張っていました。実はその様子を栗原教育長がご覧になっていました。私も後から気がついたのですが、台風の被害がないか、海沿いの学校の様子を見に寄られたときに、この練習があっていたわけです。一生懸命に取り組んでいる子ども達の姿をほめていただきました。ただ、この練習の中で「回れ右」ができない、あるいはラジオ体操を覚えていない子が多いことに驚きました。時代の流れて仕方ないところもありますが、本番までには、もう少し上手にできるよう、各学級や学年で指導したいと思います。

